

令和2年度 第5回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和2年8月7日(金)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 鹿屋 勉
午後2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午後3時10分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 紺屋 昭男
牛根小学校2階 ランチルーム (傍聴者 6名)	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長 米田 昭嗣

会議要旨

1 開会

定刻、定足数に達しており、令和2年度第5回教育委員会定例会を開会した。

2 令和2年度第4回定例会及び第1回臨時会会議録の承認

承認

3 議事

報告第26号 令和2年度垂水市一般会計補正予算(第6号)案についての市長への
意見申出について

議案第14号 垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について

4 その他

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第26号 令和2年度垂水市一般会計補正予算（第6号）案についての市長への意見申出について</p> <p>議案第14号 垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について</p>	<p>令和2年度垂水市一般会計補正予算（第6号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告するものである。</p> <p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成しようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p> <p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>

議 事 内 容 等

3 議 事	<p>報告第 26 号 令和 2 年度垂水市一般会計補正予算（第 6 号）案についての市長への意見申出について</p>
教育総務課長	補正予算案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したことを報告するとともに、その内容（新型コロナウイルス感染症対応・本市出身大学生に対する特産品贈呈、小・中学校机飛沫防止ガード、図書消毒機等の整備等）について説明。
田之上委員	机飛沫防止ガードは、いつ頃整備が完了するのか。また、図書消毒機はどのようなものか。
教育総務課長	防止ガードは早急に整備できるように業者に発注しているところである。
社会教育課長	図書消毒機は、市立図書館に設置するもので、紫外線照射と送風ファンが搭載され、同時に 6 冊の本を 30 秒から 1 分程かけて書籍のページ間の汚れやごみの除去、ウィルスの殺菌、タバコ臭等を除去できるものである。図書を借りる際や返却時に、図書を消毒機に入れて清潔な状態にするもので、受注生産のため配備は 10 月になる予定である。
田原委員	出身大学生に対する特産品贈呈は、大変喜ばれると思う。早く届けてあげて、できれば感想なども寄せてもらい市報などで紹介してはどうか。また、消毒用アルコールや体温計など、いろいろな予防用品が学校や地域にあると、住民の感染に対する注意が促されるという効果もある。これからも充実してもらえるとありがたい。
学校教育課長	出身大学生に対する特産品贈呈は、これから市内の全戸にチラシを配布して周知し、本市出身の全大学生を対象に実施する。他の自治体でも類似の対策を実施しているが、すべての大学生・短大生・専門学校生が対象というのは本市だけである。発送は9月中旬から11月中旬と考えている。
	<p>議案第 14 号 垂水市教育委員会の事務の点検・評価について</p>
教育総務課長	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成することについて説明。
田原委員	11ページの外部評価委員の評価の中に、「コロナで様々な活動の自粛がある中、児童生徒の生活リズムや心のケアに、より一層努めてもらいたい」とあるが、確かに学校ではいろいろな問題が起こっていると思う。密になるな、しゃべるなどか、中にはこれまでの学校生活とは全く反対のことを

	<p>子どもたちに言わざるを得ない状況になっている。</p> <p>子どもたちは、「友達と遊ぼう、勉強しよう。」と思って学校に来るわけなので、ストレスが相当溜まっていると思う。低学年の子ほど気を付けていかなければならない問題だと改めて思った次第であり、外部評価委員にはいい点を指摘していただいた。</p> <p>また、同じようにコロナ禍の状況の中で、不登校傾向の子どもたちがどうなったか追跡していく必要があると思う。不登校の子どもたちは学校に行けていないことが罪悪感となるので、学校がコロナで休校になると、少しでも行こうとして努力していた子どもたちが、モチベーションが低下したり、昼夜逆転に戻ってしまう。生活リズムの改善という部分でそういった子どもたちがどうなっているのか追跡していかないといけないと思う。</p>
教育長	<p>不登校の子どもたちへの対応はどうなっているのか。把握している範囲でいいので学校教育課長に説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>心のケアについては、県のスクールカウンセラー及び本市独自のカウンセラーにより計画的に全校を廻る対応を取っている。緊急の事案についても随時時間を設け、保護者と子どもの双方にカウンセリングを行うなどの対応で改善に向かっている実例もある。</p> <p>また、不登校には早期発見・早期対応が大事であり、各学校の校長、教頭及び生徒指導の教師を中心に、担任と連携を図りながら取り組んでいる。</p> <p>田原委員が言われたように、今一番問題となっているのは、昼夜逆転であり、スクールソーシャルワーカー及びスクールカウンセラーに助言をいただきながら、保護者との連携、定期的な連絡、家庭訪問など行っている。</p> <p>これらの取組みを継続して実施することの重要性を認識したうえで、学校や関係機関と連携しながらこれからも取り組んでいきたいと考えている。</p>
葛迫委員	<p>外部評価委員会の評価は真摯に受け止めて、今後の活動に生かしていきたい。</p> <p>ところで、昨今のコロナ禍の影響で県民が楽しみにしていた鹿児島国体が延期となってしまったが、開催までの間、どういう活動になっていくのか教えていただきたい。</p>
国体推進課長	<p>ご存じのとおり、今年の開催は延期となった。しかし、最近の新聞報道によると、3年後の2023年に鹿児島国体開催の可能性が出てきたようだ。</p> <p>また、鹿児島県議のスポーツ振興議員連盟でも佐賀県や滋賀県を訪問し、両県議会の議長・副議長に協力をお願いされる。8月末には何らかの発表があるようである。本市としてもフェンシング、綱引き、スポーツチャンバラの広報活動を繰り広げていきたい。</p>
葛迫委員	<p>開催が確定したわけではないが、3年の間に各種競技の大会を開催していかないと、盛り上がり感がしぼんでしまうのではないかと。予定はないのか。</p>
国体推進課長	<p>これからは、「ウィズ コロナ」でやっていかなければならない。何らか</p>

	の形で大会等を開催できるよう検討していきたい。
葛迫委員	何とか頑張っていただきたい。
教育長	国体関係の組織体制はどうなるのか。
国体推進課長	「3年後の開催」と仮定すると、組織は1年半ほど休止という形になるのではないかと思う。
田之上委員	全体的に外部評価委員の方からは高い評価をいただいたが、厳しい目で見えていただいたところもあった。委員及び各課を含めて、今後努めていかなければならないと改めて思ったところである。
教育長	議案第14号は、このような形で議会へ報告ということによろしいか。(異議なしの声あり。)
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	<p>7月22日(水)垂水高校振興委対策協議会について</p> <p>例年は、垂水高校での開催であるが、新型コロナ対策のため市民館大ホールでの開催であった。</p> <p>やはり、問題となったのは入学者が少ない、特に普通科の入学者が少ないということであった。</p> <p>また、垂水高校の校長が、中央中の3年生を対象にアンケートを取っておられたが、今の中学生は、将来自分がなりたい職業につながる学科、すなわち、学びたい学科のある高校、又は自分がやりたい部活動がある高校を選ぶ傾向があることがアンケート結果に出ていた。これは極めて望ましい選択だろうと思う。</p> <p>さらに、最近は私立と公立の進学者数が半々になっている。授業料無償化などの支援で、学費も昔のような差がなくなっている。そうなったときに、垂水高校の魅力である「一人ひとりに行き届いた指導」、「東進ハイスクールの受講」などの特典を生かすためには、今以上の学習集団が入学することが必要ではないかと思う。</p> <p>生徒同士が切磋琢磨することにより、3年後に確実に結果を出す。そうすればもっとたくさんの子どもたちが入学してくれるのではないか。</p> <p>そのためには、鹿児島市に行かなくても先生方の個別指導を受けながら、東進の講義を受けて確実に国立大学に行けるといようなことを、地元の中央中生徒や保護者に具体的に宣伝することが大事だと思う。</p>

しかし、決して、現在の垂水高校が悪いということではない。
生徒数の問題を除けば、校長や各先生方の大きな教育愛に包まれて、生徒たちが自分たちの能力を精一杯伸ばしている。非常に明るく素直な生徒たちがいっぱいいる、いい学校だと思う。ただ、垂水高校の今後に向けては、先程述べたようなことを思ったところだ。

葛迫委員

7月17日（金）「キスリング展」観覧

今年の鹿児島市立美術館での「キスリング展」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、初日にある開場式が中止になった。案内をもらっていたので初日の10時頃会場に行ってみたが、今年の「ドービニー展」とは違い、名山小学校や山下小学校の児童が参加してのセレモニーやミニコンサート、テープカットなどすべての行事がなくなっていた。

展示会会場では、観覧者の数は少なく、入館前の健康チェックをはじめソーシャルディスタンスやマスク着用が求められるなど、これからの美術鑑賞の有様が大きく変わっていくことを感じた展覧会であった。

ところで、ポーランド出身のキスリングは、20世紀初頭にパリに集まった異邦人たちの芸術家集団「エコール・ド・パリ」のリーダー的存在で、日本人の藤田嗣治や海老原喜之助なども関わっている。

会場では初期の作品から晩年の作品までが順序良く配置され、見る側には分かりやすい展示になっていたと思う。初期のセザンヌを思わせる作品から、少し頭を傾けた独特な人物像へと変化していく様子分かる。なぜかその悩ましい姿は、キスリングの生きていた時代を考えさせてくれる。

7月29日（水）メルヘン館「郷土玩具 節句人情に祈りを込めて」展の観覧

垂水市の「垂水人形」が展示されているということで、メルヘン館で開催されている「郷土玩具 節句人形に祈りを込めて」を観覧してきた。

日本では無病息災を願い人形を飾ることでその願いを込める習慣があったとされている。今回は新型コロナウイルスの収束を願って企画したという展覧会であった。

会場には全国各地の玩具がずらりと並べられ、鹿児島県関係では「金太郎」の帖佐人形、「大黒」の垂水人形といった作品が並んでいた。また、「アマビエ」といった人形なども目を引き、邪気を払ってくれるというこれらの人形にコロナ収束を願うことだった。

コロナ禍の中で多くの人々が行きかう場所への移動ができなくなってしまふことで、マスク着用やソーシャルディスタンスを取りながら行動しなければならないと思う。様々な行事や催し物などの参加行動に注意しながら、人と人との交流を、そして夏休み企画の展覧会に足を運んでいただきたいと思うことだった。

田之上委員

夏休みを迎えて

梅雨明けとともに厳しい暑さが続く中、例年より10日遅れて夏休みが始まった。

先日、小学校の図書室開放日を覗いてみると、母親と子ども3人が一緒

に来室され本を探しているのを見守っておられるほほえましい場面に出会った。家庭で過ごすことの多い夏休みに、親子で読書する時間も楽しんでほしいものだと思うことだった。

また、学校単位、クラス単位で先生が午前中に子どもたちを集めて、学習の遅れを取り戻すためにドリルや宿題などで勉強を教えているところがあるようだ。子どもたちも熱心に取り組んでいるようなのでありがたいことだと思う。

次に、垂水児童クラブであるが、今は夏休みで、40～45名程度の子どもたちが朝から来所している。なるべく時間を区切りながら、学習タイムや外遊びで過ごしている。

学習タイムでは課題帳やドリルに取り組み、外遊びはなるべく朝の早い時間帯を選んでいるが、虫取りや長縄跳び、サッカー、一輪車など汗びっしょりになりながらも元気いっぱい遊んでいる。子どもたちの元気に走り回る姿を見て、子どもらしい時間を過ごしてくれていることにほっとしている。

今年は、公園などで子どもたちの姿を見ることが少ないように感じるが、子どもたちが安全に気を付けて、楽しい夏休みになりますように願っている。

また、先生方には研鑽を積まれるとともに十分にリフレッシュしていただき、2学期に備えてもらいたい。

教育長

夢の実現 学びの教室について

コロナ禍の中でいろいろなことができない状況であるが、8月4日から「夢の実現 学びの教室」をスタートした。

申し込みは35名であったが、当日は中学1年生18名と3年生10名、計28名によるスタートとなった。

1年生と3年生を同じ部屋に集めて出発式を行ったが、皆、「よし、これから勉強頑張るぞ。」と言わんばかりに目が輝いていて、やはり子どもたちはいいなと思ったところだ。1年生は1年生なりに自分の目標を持ち、更に3年生は、受験を目前に控えているだけに気持ちのノリが違うように感じた。そんな子どもたちを前にして、3点ほど話をさせてもらった。

「素直で、明るく、前向き」、この3つが揃ったときに必ず成績は伸びる。その上に周りの人たちへの感謝の気持ちが備わると更にグッと成績は伸びる。そして、今日一緒に来た仲間は、ライバルでもあり、励ましあう仲間でもある。そのような話をしながら、子どもたちにエールを送らせてもらった。

なお、「夢の実現 学びの教室」では、田之上委員の息子さんが講師で協力してくれている。大学3年生ということで自分たちに年齢も近くて尋ねやすいのか、多くの子どもたちから質問を受け、その質問について分かりやすく教えてくれていた。

講師には、ほかに外国語指導講師の方、特別教育支援員の方々など、総勢10名ほどのスタッフが揃っていて、その方々が同様に子どもたちの「分かりたい。できるようになりたい。」という気持ちに寄り添って指導している姿を見て、きっとこの子たちは伸びるんだろうなと思ったところである。

<p>教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長 国体推進課長</p> <p>6 閉 会</p>	<p>コロナ禍の中で、いろいろな制約があるが、できるところから少しずつやっっていこうと考えているところである。</p> <p>4課長から7月17日から8月7日までの主な行事等の実施状況について報告するとともに、9月10日までの行事予定についてお知らせした。</p>
---	--